

# 令和3年度第1回新潟市文化創造推進委員会 会議録

開催日時	令和3年9月6日（月）午後2～午後4時
開催場所	新潟市役所 本館6階 第3委員会室（WEB会議）
出席者	<p><b>【委員】</b>（50音順）</p> <p>伊野義博委員、大澤寅雄委員、多田稔子委員、中村美香委員、野内隆裕委員、百合岡雅博委員、若林朋子委員</p> <p>出席 7名</p> <p>欠席 1名（堀内貞子委員）</p> <p><b>【事務局】</b></p> <p>文化スポーツ部長、文化政策課長、文化政策課長補佐、文化政策課企画チーム職員</p> <p>アーツカウンシル新潟</p>
傍聴者	0名
報道機関	0社
会議内容	<p><b>1 開会</b></p> <p><b>（司会）</b></p> <p>ただいまより令和3年度第1回新潟市文化創造推進委員会を開催します。委員の皆様におかれましては、お忙しい中ご出席いただきまして、誠にありがとうございます。</p> <p>私は、本日、司会を務めさせていただきます文化政策課の土屋と申します。どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>本委員会は公開の会議とさせていただきます。会議録作成のため録音、録画をさせていただくことをあらかじめご了承ください。</p> <p>また、本日は感染症拡大防止のため、委員の皆様にはオンラインで参加していただいております。スムーズに会議が進行できるよう努めますが、何分不慣れなため、不手際等ありましたらご容赦いただけると幸いです。</p> <p>まず、本日の会議資料の確認をさせていただきます。</p> <p>次第、出席者名簿、当日資料としまして「令和3年度第1回新潟市文化創造推進委員会会議資料」、資料1「新潟市文化創造交流都市ビジョン成果指標について」、資料2「ヒアリング対象事業」、資料3-①「新潟市文化創造交流都市ビジョンの実施状況」、資料3-②「関連事業一覧」、資料4「職員ワーキングによる体系項目の洗い出し」、資料5「次期総合計画の構成イメージ（案）」、資料6-①「令和2年度アーツカウンシル新潟事業報告書」、資料6-②「令和2年度アーツカウンシル新潟成果検証について」、そのほか「新潟市文化創造交流都市ビジョン」の冊子と概要版ということで、以上を郵送させていただきます。資料はよろしいでしょうか。</p> <p>それでは、開会にあたりまして、新潟市文化スポーツ部長の長浜からごあいさつをさせていただきます。よろしくお願いいたします。</p> <p><b>（文化スポーツ部長）</b></p>

新潟市の文化スポーツ部長を務めております長浜と申します。よろしくお願いいたします。

このたびは、委員の皆様、お忙しい中、新潟市文化創造推進委員会の委員にご就任いただきまして、本当にありがとうございます。今年度、来年度と2カ年ということになりますけれども、どうぞよろしくお願いいたします。

昨今の話題でいいますと、昨日、パラリンピックが終了いたしました。東京2020がすべて終わったということです。皆様ご承知のとおり、オリンピックというのは、スポーツの祭典ということだけではなく文化の祭典という位置付けでもあるということで、本来であればコロナということがなければ、スポーツに加えて、文化についても文化プログラムをはじめ、もっと盛り上がる、盛り上げていきたいという思いがあったわけですが、オリンピック・パラリンピックが延期されたこととあわせ、さらには、そもそも開催すべきかどうかという社会情勢の中で、オリンピックそのもの、パラリンピックそのもののあり方が問われ、かつそこに文化という部分があり注目されないまま終わってしまったという感じを私は受けております。

そのほかにも、コロナということで、文化、芸術、エンターテインメント、その分野におきましても非常に大きな影響、悪いほうの影響を受けたということが実感ではないかと思えます。しかしながらその中で、むしろこういった芸術文化の重要性ということも、一方で再認識されたという部分もあるかと。あわせて平常の中では見ないようにしてきた課題というものもあぶり出されてきたとも思っております。

新潟市の文化創造推進委員会でございますけれども、平成29年度からのビジョン、文化創造交流都市ビジョンということで進めてきました施策について、進捗状況や課題など整理したものを皆様方からご意見を頂戴することとあわせて、今回の委員会におきましては、次のビジョンをどうしていくかということについても皆様方からご意見を頂いて、新たな社会の中での文化のあり方というものを探していきたいと考えております。

皆様方からは、ぜひ忌憚のない、それぞれの専門的なお立場からのご意見を頂戴できればと、切に思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。本日は、よろしくお願いいたします。皆様、ご就任ありがとうございました。

#### (司 会)

それでは、次に進めさせていただきます。

まず、文化創造推進委員会の委員の皆様をお願いする業務の概要について、ご説明をさせていただきます。

文化創造交流都市の推進に当たっては、市役所の庁内組織として文化創造推進本部、文化芸術等の専門家組織であるアーツカウンシル新潟、そして外部有識者等で構成する本推進委員会、この3者が三位一体の体制で、文化創造交流都市の実現に向けた取組みを推進しているものです。

推進委員会の委員の皆様のご役割としては、一つ目は次期ビジョンの策定作業、二つ目は次期ビジョンの成果検証方法について、さまざまな角度からご意見を頂きたいと思っております。この二つについては、現行ビジョンについても

同様にご意見を頂きたいと思います。

三つ目として、アーツカウンシル新潟の活動状況についてです。本日、令和2年度の取組みをご報告させていただきますが、これに対してもご意見を頂ければと思います。

また、この会議については、委員の皆様それぞれの視点で意見を頂くものでありますので、合議体として審議、答申を頂くものではありません。

なお、本日の会議については、文化創造交流都市ビジョンの全体像を共有させていただくということを大きな目的としております。

続きまして、本日ご出席いただいている委員の皆様から自己紹介を頂きたいと思います。なお、本日は堀内委員が欠席となっております。また、オブザーバーの新潟県文化振興課が公務のため急遽欠席となりましたので、あわせてご報告申し上げます。

それでは、出席者名簿の順番でお願いしたいと思います。まずは伊野委員、お願いします。

**(伊野委員)**

皆さん、こんにちは。伊野義博と申します。委員名簿を見ますと、私だけ何をやっているか分からない。皆さんは、大体、何となく想像できるのですけれども。この3月まで新潟大学に勤めていました。今も授業をやってはいるのですが、以前は、新潟県内の公立中学校の教員をやっておりました。音楽の先生をやっていました。それから、新潟大学で教員養成をずっとやっておりまして、音楽教育が中心ですけれども、もう片方足を突っ込んでいますのが民俗系の民俗音楽や民俗文化のほうです。そちらを両方、それと学校をどうつなげるかということをやってきました。その関係で、さまざまな文化の活動、あるいは文化関係の仕事に携わらせていただいております。今回はお声をかけていただきましたので、がんばりたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

**(司 会)**

ありがとうございます。それでは、大澤委員お願いします。

**(大澤委員)**

ニッセイ基礎研究所の大澤と申します。私は、文化政策やアートマネジメントに関する調査、研究ということをしておりまして、現在は福岡県に在住しております。もう、8年間くらいリモートワークで、東京にあるニッセイ基礎研究所から離れて、自宅で基本的に仕事をしておりまして、地方から見た日本の文化政策ということ、自分としてはテーマにしながら調査、研究をしております。よろしくお願いいたします。

**(司 会)**

ありがとうございます。それでは、多田委員お願いします。

**(多田委員)**

多田でございます。和歌山県田辺市というところで、熊野古道を軸にした観光振興に努めております。新潟とは深い縁はないのですが、杉浦さんと映画祭でご縁を頂いて、今日に至りました。どうぞよろしくお願いいたします。

します。

**(司 会)**

ありがとうございます。それでは、中村委員お願いします。

**(中村委員)**

にいがたユニバーサルまち歩きの事務局長の中村美香と申します。アーツカウンシルから助成を受けており、以前も、こうしたビジョンで関わったこともあるということもありましていろいろな角度から、こういった意見を言えたらいいと考えています。どうぞよろしく願いいたします。

**(司 会)**

ありがとうございます。それでは、野内委員お願いします。

**(野内委員)**

こんにちは、新潟市中央区在住の市民です。自分のまちを面白いと感じ、地図を作り案内をしておりましたところ、2007年に新潟市さんに声をかけていただきまして、ガイドの養成や、まち歩きの地図を新潟市さんと作らせていただいております。現在はこれらの地図等を活用し、まちを案内する団体「路地連新潟」として活動しております。

ほかにも、北前船の寄港地、新潟を発信したいという事で、日和山にある「日和山五合目」という資料館を作ったり、開港地新潟をもっとたくさんの人に発信できないかということで、4年前から「新潟イザベラ・バード研究会」というものを仲間たちと立ち上げて活動しております。よろしく願いいたします。

**(司 会)**

ありがとうございます。それでは、百合岡委員、お願いします。

**(百合岡委員)**

よろしく願いいたします。百合岡でございます。私は、新潟に移住してきて11年目になる関西人です。仕事内容は、新潟市内の中小企業、あるいは起業家、これから創業するという方の窓口相談業務、あるいは新潟市の産業政策の中で、こういったことをやっていけば地域中小企業のプラスになるのではないかといった企画の部分のお手伝いをさせていただいています。

文化という側面についても、お金にしていくためにはどのようなことをしていけばいいのかといったところから、この委員会の中で少しお役に立てばということで参加させていただいております。どうぞよろしく願いいたします。

**(司 会)**

ありがとうございます。それでは、若林委員お願いします。

**(若林委員)**

東京から参加しています。新潟は助成金の選考委員会に参加するなどご縁があり、新潟が大好きになりました。最近コロナで行けなくて残念です。

私は、プロジェクト・コーディネーターと大学教員をしていますが、もともとは企業メセナ協議会という公益法人で企業の文化活動を応援する仕事を長らくやっておりました。芸術文化の支援に20年以上携わってきた経験か

ら何かお役に立てたらと思ってきました。

大学では、社会デザインという耳慣れない領域にいますが、こうだったらいいなと思う社会をどのように設計していくか学際的に考える学問です。私はそこで、文化や芸術の側面からこうありたいと願う社会を作る研究を、大人の大学院生たちと進めています。どうぞよろしく願いいたします。

**(司 会)**

ありがとうございます。皆様、よろしく願いします。

また、本日は、アーツカウンシル新潟の杉浦幹男プログラムディレクターにもご出席いただいております。杉浦さん、よろしく願いします。

**(アーツカウンシル新潟)**

アーツカウンシル新潟の杉浦でございます。ビジョンをこれまで新潟市と検討してきたわけですが、いろいろな行き詰まりとか、外から見たときの素朴な、もしくは鋭いご意見を期待しております。皆様、ぜひ忌憚のないご意見をずばずばと言っていたいただければと思いますので、よろしく願いいたします。

**(司 会)**

ありがとうございます。

続いて、事務局をご紹介させていただきます。

**(文化政策課長)**

文化政策課長の塚原でございます。このたびは、お引き受けいただきまして、大変ありがとうございます。楽しく、創造的な委員会にしていければといいと思っております。どうぞ、忌憚のないご意見をよろしく願いいたします。

**(文化政策課長補佐)**

改めまして、文化政策課課長補佐の土屋と申します。どうぞよろしく願いいたします。

**(事務局)**

文化政策課の山下です。どうぞよろしく願いいたします。

**(事務局)**

文化政策課の森です。よろしく願いいたします。

**(司 会)**

続きまして、本委員会の委員長及び副委員長の選出に移らせていただきます。

新潟市文化創造推進委員会開催要綱第6条2項に委員長及び副委員長は、委員の互選によってこれを定めるとあります。

まず、委員長を選出したいと思えます。委員の皆様からご意見はありますか。

ないようですので、事務局からご提案させていただいてよろしいでしょうか。

事務局の案としましては、若林委員を提案させていただきます。その理由として、本委員会については、先ほど申し上げました通り、次期ビジョンの

策定が今後の大きな作業になってきますが、若林委員におかれましては、自治体の文化振興計画の策定委員などのご経験が豊富であるということ、また後ほどご説明します、私どもで次期ビジョンの策定に向けて実施した職員ワーキングでもアドバイザーを務めていただいております。以上のことから、若林委員に委員長をお願いしたいと考えておりますが、皆様いかがでしょうか。

**(異議なしの声)**

それでは、委員長を若林委員をお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

続いて、副委員長の選出です。皆様、ご意見はありますでしょうか。これも事務局からの提案ということでよろしいでしょうか。

それでは、事務局の案としましては大澤委員をご提案させていただきます。若林委員同様に自治体の文化振興計画の策定委員などのご経験が豊富であるとともに、大澤委員にも次期ビジョンの策定に向けて実施した職員ワーキングでアドバイザーを務めていただいております。また、大澤委員は本市のアーティスト・イン・レジデンスの選定委員も務めていただいております。以上のようなことから、大澤委員に副委員長をお願いしたいと思います。いかがでしょうか。

**(異議なしの声)**

それでは、副委員長を大澤委員をお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

それでは、これより議事に入ります。ここからの進行を若林委員長にお願いいたします。

## **2 現行の新潟市文化創造交流都市ビジョンについて**

**(当日資料、資料1、資料2、資料3-①、資料3-②)**

**(若林委員長)**

委員長の役をご指名いただきましてありがとうございます。僭越ながら、皆さんの力をお借りして進めていきたいと思っております。通常は、こういう場の座長は地元の方がなさることが多いかもしれませんが。そこで自分の役割を考えてみたのですが、本会議は、合議体としての審議や市に対して答申を行う会議ではないので、できるたくさんの方の意見を出し、議論を深めることが重要だろうと想像します。となると、座長はむしろ進行に徹し、地元の方々を含む委員の皆さんになるべく意見を出していただくことが役目と思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

大澤さん、副委員長として、何か一言あれば、どうぞ。

**(大澤副委員長)**

私も、新潟市の方々がなるべく意見を出しやすいように促す役割かと思っていますので、委員長を補佐しながら、皆さんの意見をどんどん引き出していきたいと思います。よろしくお願いします。

**(若林委員長)**

大澤さん、ありがとうございます。今日は長丁場ですが、初回から意見をたくさん出し合える場にしていきたいと思います。今日は議事が複数あります。まず、次第2「現行の新潟市文化創造交流都市ビジョンについて」、事務局よりご説明をお願いします。

**(事務局)**

ここから山下が説明させていただきます。

では、パワーポイントの資料5ページをご覧ください。「文化創造交流都市ビジョンの概要」です。

文化創造交流都市ビジョンは、新潟市の最上位計画である新潟市総合計画の分野別計画で、計画期間は平成29年度から令和5年度までの7年間となっております。当初、令和3年度までの5か年でしたが、総合計画が令和5年度に改訂を迎えることから、総合計画の内容と連動した文化計画とするため、計画期間を2年延長して、令和5年度までとしております。

続いて、6ページに移ります。皆様に郵便でお送りしました文化創造交流都市ビジョンの概要版の見開きのものをこちらに記載してございます。ご覧いただくと、基本理念があって、新潟市の目指す文化創造交流都市の姿、この実現のために基本方針1、2、3と分けて施策の方向性を定めております。新潟市が取り組んでいる事業が網羅されるような幅広い取組みを掲載しているものになっています。

では、続いて7ページをご覧ください。こちら「ビジョンの推進のための取組み」の「ビジョンの進行管理」についてです。皆様のお手元にある文化創造交流都市ビジョンをご覧くださいと、もうお分かりかもしれませんが、今のビジョンの中では、数値を用いた成果指標というものを設定しておりません。この理由が、現ビジョンの策定時、文化創造推進委員会での委員の皆様からのご意見で、文化や芸術に関しての成果は数値では現れにくいとか、数字だけではなくてインタビューなど外部からの評価も必要なのではないかと、そういったご意見もあり、ビジョンの中では数値を用いた指標は設けないことにいたしました。ただ、このビジョンの達成状況を図るために成果検証は必要であるということで、新たな評価システムを作ろうということになりました。庁内のワーキンググループや推進委員会での委員の皆様からご意見を頂きながら、ここに記載してございます1、2、3のような評価方法を考えました。

「1 市民の行動変容を測る指標項目を設定して、数字の変化を見る」、  
「2 指標に寄与すると思われる事業を選定してヒアリングを行う」、「3 全庁的に『文化関連事業』の調査を実施し、取組みの全体の状況を把握する」、この三つを総合的に判断して評価をするという成果検証を試みることにしました。1、2、3それぞれについて説明していきたいと思います。

資料1をご覧ください。「新潟市文化創造交流都市ビジョン成果指標について」という一覧です。こちらは、ビジョンに基づいて事業を行うことで、市民にどのような変化が現れるか、それを成果と考え、その成果を図るための指標を検討し、この一覧にあるように、左側の欄の「①鑑賞行動」から「⑩文化創造交流都市の推進」の10のカテゴリーで、全部で20項目の指標項目を考えました。この指標項目は、最終的にこの数字を目指すというものではなくて、数値の変化を見ていくものとしています。

そして、この指標項目の数値を向上させることにつながる事業を選んでヒアリングをするということをしました。

資料2をご覧ください。「ヒアリング対象事業」というものです。

こちらは、カテゴリーごとに指標の数値の向上につながる事業を選びまして、全部で28の事業をヒアリングすることとしました。アーツカウンシル新潟の職員と文化政策課の職員が事業担当部署に出向いてヒアリングを行いました。

ヒアリングの目的は二つありまして、一つは、事業担当部署の職員とディスカッションを通じて事業改善を図り、事業のブラッシュアップが指標の向上につながることをねらいとしています。

もう一つは、事業担当課から、事業を行うことで市民にどのような変化があったかや、どのような成果が生まれたかなどのエピソードを聞き取って、定性評価につなげるということも目的としております。

例えば、カテゴリー「④ブランディング」の「10 食文化創造都市推進プロジェクト」というものがありますが、こちらは農林水産部食と花の推進課という部署の事業になっております。新潟市の食や食文化の新たな魅力や価値を生み出す取組みを広く募集し、採択された事業に助成金を交付するものです。ヒアリングの中では、応募者やテーマが固定化されつつあり、若者の参入が課題だという話が担当からありました。こちらからは、採択された事業者が横のつながりを作ってプロジェクトを立ち上げるような展開が望ましいのではないかというようなアドバイスをしたところ、所属で採択事業者と生産者を巻き込んでワーキングを検討してみようかなという話も出ました。

あとはカテゴリー「⑤交流人口」の「12 新津鉄道資料館の魅力創造事業」ですが、新潟市に秋葉区という区があるのですけれども、そこは旧新津市というところで、新津鉄道資料館という施設があります。その取り組みになっています。新潟市秋葉区にはJRの車両製作所があることから、鉄道のまちを特色の一つとしています。ヒアリングでは、来館者数を増やすために開催時期を変更してはどうかとか、ターゲットに合わせた企画内容にすること、あとは来館者の集計方法を工夫してはどうかなど、いろいろなアイデアが出まして、事業改善につなげています。このような形で28の事業をヒアリングしてきました。

続いて、資料3-①をご覧ください。「新潟市文化創造交流都市ビジョンの実施状況（令和2年度）」という資料です。こちらは、全所属を対象に年

に1回、文化や芸術など、関連する事業を洗い出す調査を行っておりまして、この資料は令和2年度の調査結果をまとめたものになっております。こちらを見ていただきますと、基本方針1、2、3と体系に沿って事業数、うち実施した事業数、一部実施の事業数、未実施の事業数を掲載しております。令和元年度と比べますと、事業数自体は増えてきているのですが、新型コロナウイルスの関係で実施の事業数が減りまして、一部実施、未実施が増えているような形になっています。その下は部・区ごとの事業数、2ページ以降は基本方針1にぶら下がっております施策の方向性に沿って事業数を掲載しておりますし、主な事業をいくつか載せてございます。

資料3-②をご覧ください。「関連事業一覧」というものです。こちらは今の調査の結果をすべての事業について載せた一覧で、施策の体系ごとに載せております。ですので、先ほどの資料3-①のバックデータという形になっております。ここに載っている事業が令和2年度、新潟市で実施された文化・芸術に関連するすべての事業ということになります。

以上のように、三つのやり方で成果検証というものを進めてきました。ただ、今、課題に直面しているところです。

パワーポイントの資料8ページをご覧ください。「文化創造交流都市ビジョンの課題」というところですが、一つは、いまだに成果検証方法が確立していないということです。

今、申し上げた評価方法のうち、ヒアリングによる指標の数値向上という部分がうまく機能していないという現状があります。ヒアリングに行きまして、担当の職員とお話をしていると、文化のビジョンというのはそもそも何なのかとか、指標項目というのは一体何だとか、なぜ自分たちの事業と文化の指標が関係するのか、そういったお話が出てきまして、指標項目の向上を目指して事業改善を図るという認識が共有できずに、こちらからアドバイスしたことに対して、なぜ文化の部署の職員に自分たちの事業について指摘を受けなければならないのかと、反発のようなものもありました。

やり方について、再度、検討が必要ということで、令和2年度の途中でヒアリングは一旦中止としています。

ただ、定性評価につなげるためのエピソードの聞き取りは、文化関連事業調査の調査項目に加えるなどして継続していきたいと考えております。

もう一つですが、現ビジョンの内容は、総花的で優先すべき施策が分からないということがあります。社会情勢の変化に対応して、5年先、10年先を見据えたビジョンにし、行政だけではなく、市民や事業者にとって分かりやすい明確なビジョンにしなければならないと思っています。

以上が、現行ビジョンについての説明となります。不明な点やご意見などがございましたら、お聞かせいただければと思っております。よろしく願いいたします。

**(若林委員長)**

ご説明ありがとうございました。早速ですが、今の説明や配付資料についてのご質問やご意見、ご提案などをお願いいたします。15分程度を予定してい

ます。

今のたくさんの説明から感じ取れたのは、成果検証方法に苦勞されているのだということ。スライド資料8ページの事務局の考える課題2点、成果検証方法の確立と総花的なビジョンの扱いについて、ご意見を頂けたらと思います。

とは言え、今日は最初ですので、いきなり成果検証の方法から入るとつらいので、ビジョンに対する率直な意見をまず伺えたらと思います。基本方針三つ、大きな基本理念、目指す姿について、地元の住民としてはどう思うか、まちづくりや中小企業支援の立場から見るとどう見えるかなども伺えたらと思います。いかがでしょうか。

**(伊野委員)**

大事なところを一つ教えてください。先ほど、ヒアリングされた部署の方が、なぜヒアリングされなければいけないのかという、それはつまり恐らくそれぞれの部署でやらなければいけない事業を一生懸命やっているのだけれども、それがこの文化という枠組みの中に入っているということをあまり意識しないとか、あるいは意識できないで毎日、仕事をやっているのだ。だから、あなたたちなぜ来るのと、こういう理解でいいですか。

**(事務局)**

伊野先生のおっしゃっているような意見もありました。まず、文化創造交流都市ビジョンというものが新潟市にあるということをごどれだけの職員が知っているかというところですが、ヒアリングに行ってみると、皆さん自分たちの事業には自分たちの目標があって、それに向かってがんばっておられるところ、実は皆さんのやっている事業は、文化の私たちの部署から見ると、こういう良いこともあるとか、こういう影響もあるのですよというようなお話をするのですけれども、そんなことは自分たちには分からないことで、例えば、このようにしてみたらどうですかみたいなお話をさせてもらっても、それはあなたたちのやるべきことなのではないかとか、なかなかそこが話をしているにもかかわらずかみ合わないなという、ヒアリングを実際にやってみて、そういう感覚がありました。

杉浦さん、一緒にヒアリングに入っていていただいでどうでしょうか。

**(アーツカウンシル新潟)**

そうですね。このビジョン自体が文化政策関連以外の部署にあまり認識されていないということもそうですけれども、このビジョン自体が普段行っている事業の進捗管理に活用されているわけではないということです。それが非常にヒアリングをしていて、私も、このビジョンが策定された後にアーツカウンシルができて、各部署にヒアリングを開始したわけですが、そこがまず一つのビジョンを認識してもらおうということが壁になっているところなんです。また、そういう意味でヒアリングをしたことによって、助言も、進捗管理も含めてうまくいったところもないわけではないので、そういう意味では、ヒアリングが果たす一定の役割はあったのかとは思っています。

(伊野委員)

ありがとうございました。

(若林委員長)

今のご質問と応答について、何か追加でご意見などありますか。

(中村委員)

今のことに関連してですが、ビジョンがあることについて、どのように庁内に知らしめていたのか、または忘れさせないためにどのような活動をされていたのかというところを教えてください。

(事務局)

努力していたのかと言われるかと、自分自身は頑張りが足りなかったのかという思いはあります。年に一度、全庁的に「ビジョンというものがありますよ。皆さんの所属でこのビジョンに基づいて、文化、芸術に関連する事業はどんなことをされていますか」ということを、必ず決まった時期にお聞きするということをしていたのですが、毎年、この調査になっているので、所属の皆さんは異動を繰り返したりして、「毎年、この時期に文化政策課から依頼のあるこの調査だな」、「前年度、回答した事業はこれだから、今年もこれだな」みたいな、そういった感覚で、恐らく回答をいただいているように思います。ビジョンとは何か、ビジョンの目標とは何なのか、そして、それを達成するとどうなるのかとか、そういったことをその調査の中で、私どものほうで説明をするとところが足りていなかったのかと。その調査をしているということに甘んじていたのかと個人的には思っています。個人的な感想になって申し訳ございません。

(事務局)

課長の塚原です。

全庁にどうやって共有していたのかという委員からのご質問ですけれども、皆さん、先ほど説明したのですけれども、資料3-①と②というものが今、山下が説明した全庁的な調査、②のほうは事業の一覧で、3-①がそれをビジョンの体系ごとにまとめたものになっていると。これを冒頭申し上げました三位一体でこの文化創造交流都市ビジョンを推進していくと申し上げましたけれども、庁内だと文化創造推進本部というものが市長を筆頭に各部の部長たちから構成される推進本部というものがあまして、そちらに今ほどの資料3-①、3-②をお示ししながら共有していくといったところで、全庁的な意思統一をしていこうというところで始まっているのですけれども、なかなかそれが功を奏していないということが実態だと思います。

仕事の内容によっては、例えば、農林水産部ですと、新潟はやはり米だとか、酒だとか、食文化というものは非常に分かりやすいので、農林水産部では食文化創造都市ビジョンというものを作って、事業を展開したりしていますし、あとは福祉部門、共生社会、社会包摂的な取組み、これについては、福祉部とも思いは一致する、分かりやすい部門とは共通の認識が取れるのですけれども、なかなか全庁的に同じ思いが作れるかというところ、まだそこまでいっていないのが現状かと思っています。

(若林委員長)

ありがとうございます。では、百合岡さんお願いします。

(百合岡委員)

新潟IPC財団は、新潟市の経済部の外郭団体としてついていきますので、我々の上位には産業ビジョンがございます。産業ビジョンは平成29年のできあがり、それを基にして新潟IPC財団の経営理念や事業計画ができあがってきています。しかし、先ほどと同じような話になりますが、我々のようにプロパーはずっと残っていますが、それを管理運営する方々がどんどん異動し入れ替わっていく中、5年も経てば薄れてきますよねという感想です。

先ほど、資料1の⑥の下段にあります「公益財団法人新潟市産業振興財団における窓口相談利用件数」では、昨年度、2009件の相談がありましたが、そのうち364件がビジョン計画期間中における各数値として掲載されています。この数値というのが情報通信産業やIT産業、あるいはコンテンツ産業で構成されていると思っておりますが、当財団の中でこの認識を持てる人はほとんどいないと思っております。コンテンツ産業などは、経済部の別の課の事業となりますので、長くならないとつながってこないと思っておりますが、これが課題と思っているところです。これについては、説明をしているのか、言い訳をしているのかよくわからない発言となります。

そんな中で、経済部的な側面で、新潟市の産業ビジョン、あるいはその上位概念である新潟市のビジョンについて、文化と産業の違いはありますが、産業においては大きなゴールとしては、新潟市のGDPがあります。RESAS(リーサス)というシステムで誰でも簡単に見ることができますが、これで見ると、2015年の新潟市のGDPは大体3兆円です。この数字が大きくなれば経済発展、要は規模が大きくなっているということで、これが小さくなっていれば改善しなければならないと考えています。

このための方法として、インバウンドがあり、外から来てお金を落としてもらうMICEと言われるもので、観光部が担っている仕事です。

経済部では、地元の中でお金が循環する仕事で、たんす預金表に出っていくなど、この量を増やしていくことがひとつ、そして、県外や海外などに展開していったお金を持ってくることで、このためには競争力のある製品をつくり、販売実績を高めてもらうこととなります。

このようにシンプルなゴール設定で良いと考えますが、なかなか定着していません。このような中で発言することで何らかの形で化学反応が起きればと考えます。

長くなりました。ありがとうございます。

(若林委員長)

百合岡さんありがとうございます。

成果検証と他部署へのビジョン浸透という運用の話が出ました。次期ビジョンに向けての議題のところでも引き続き話せるといいと思っておりますので、現行のビジョンの中身について、少しご意見を伺いたいと思っております。

概要版を開いていただくと、基本方針1「市民の文化芸術活動を支援し、

次世代への継承を進めます」とあり、その中に四つの方針があります。基本方針2「新潟市らしい文化の発信と交流により世界の中での存在感を高めます」の中に二つの方針。基本方針3「文化の力を活用して都市の活力創出と成長を目指します」に二つの小さな方針が連なっている。この基本方針1、2、3について、あるいは全体の基本理念について、何かご意見ありますか。野内さん、いかがですか。

**(野内委員)**

2007年に新潟市さんから声をかけていただき、案内板を作ったり、地図を作るお手伝いをさせていただきましたが、現在も一緒に作ったものを活用していこうと活動しております。

みなとまち新潟の北前船、開港地の魅力のまちあるきを通した顕彰活動が、資料に載っていなかったのも、なぜ私のところにヒアリングに来てくれないのかなと思いました。

具体的には、2007年から制作した「小路めぐり」地図、案内板、そしてそれらを活用するソフトとして2008年に「シティガイド」さんが出来た事です。

ガイドさんの存在は、単に観光向けという事だけではなくて、住民が自分のまちを自分の言葉で伝える体験があるという事が、とても大切だと思います。中央区がお手伝いしてくださっている「えんでこ」など、とてもありがたい行事だと感じております。

また「全国路地サミット2010」を新潟に誘致することが出来ましたが、それ以降、まち歩きの間人同士の交流がいまだに続いております。これも大きな成果だと思っております。

そんな中で、新潟はすごいねと言われるところは、小路めぐりの地図や、シティガイドさんが、総合学習で活用され、教育としっかりかみ合っている事です。

発信力というところであれば、5年前になりますけれども「ブラタモリ」で新潟のまちが取り上げられたということは、まち歩きで盛り上げていた成果物なのです。また、現在でもTeNY（テレビ新潟）さんのまちあるき番組等で、定期的に案内をさせていただいておりますが、登場していただいているのが、新潟市内各区のガイドさんです。2007年に始まったガイドの成果、講座の成果がきちんと出ているところでもあります。

日和山の整備というものも、民間で声を上げたところ、行政が手伝ってくださって、現在は「るるぶ」「まっぷる」に紹介され、観光資源となっております。また、小学校の理科の教科書に新潟の日和山が掲載されることになり、学生の皆さんが訪れる形にもつながっています。

文化庁で認定する「日本遺産」では、新潟市が北前船の寄港地というところで選定していただきましたが、もう少しこれらを活用いただければと思います。

もう一つ、開港場としての「みなとまち新潟」の魅力を発信しようという事で、「イザベラ・バード研究会」というものを立ち上げて、県外、世界へ

と発信するべく活動していたところ、ありがたいことに開港 150 周年で新潟市さんと共催で、講演会やまち歩きをやらせていただきました。これは非常に耐久力のあるソフトなので、開港 160 周年、170 周年に向けて、これらを大事にしていきたいと思います。

**(若林委員長)**

ありがとうございました。個々の活動がヒアリングの対象になっていないとのこと。活動する側にとっては、自分たちの活動が文化ビジョンにどう結びついているのか見えにくいのかもしれないですね。

和歌山、田辺市から見たときに、多田さん、この文化ビジョンはどのように見えましたか。率直なところを伺えたらと思います。

**(多田委員)**

私は日ごろ観光という分野でいろいろなことをしているのですが、文化というものは観光施策によく似ているところがあると思うのです。何でも文化なのです。観光も、今の時代、何でも観光です。何でも文化なのだけれども、ここでやるべき文化施策とは何なのかということをもう一度絞って、再定義する必要があるのではないかと。そうすると成果も見えやすい。

もう一つ私が感じたことは、基本方針 2 の「新潟市らしい」という「らしい」です。私たちもよく使います、熊野らしさとか。その「らしい」ということは一体何なのか。それを言葉で表せるようにしていくプロセスこそが個々の事業で必要ではないかと。新潟市も田辺市と同じように大合併していますよね。それぞれの地域に文化も、歴史もあって、それぞれ特性というものがあつたのですけれども、広大になつた新潟市といつたときに、「らしさ」とは一体何なのか。どういう言葉で表されるのかという、ここができていくと、みんな進むべき方向も見えてくるし、地域ブランディングができると思うのです。だから、観光をやつていても、いつもジレンマです。そこに到達するまでが大変なのですよ。

もう一点だけ気になることがあります。私は何の知識もなかつたので、事前に新潟市の総合計画を見せていただいたのです。多分、「文化でまちを創造していく」ということは、市としての大きな柱になる施策であると思うのですけれども、「にいがた未来ビジョン」の中に文化というタイトルがないのです。創造交流都市というのは、都市像 3 のところにあるのですけれども、その前に文化がついていないのが気になりました。あえて抜いているのか、また違うカテゴリーなのかが分からないのですけれども、重要施策の一つであると思うので、総合計画の中で文化創造交流都市と「文化」をぜひ入れていただけたらと思います。

**(若林委員長)**

多田さん、問題提起ありがとうございます。何でも文化だとすると、その文化とは一体何なのか再考することこそ、ビジョン策定のプロセスとして重要なのではないかとということ。新潟らしさ、「〇〇らしい」ということの説明の難しさはご指摘のとおりです。これを考えるプロセスも非常に重要なのではないかと。言語化が必要というご指摘について、何といつても大澤さん

が常日ごろ長らく考えているテーマだと思うので意見をお聞かせください。

**(大澤委員)**

ありがとうございます。手短に次の議事に進めるために、今、振り返って思うことは、多田さんがおっしゃったように、文化を再定義するということと、新潟らしさを考えるときに、やはりその文化として何を重んじていくのか、新潟ならではの優先順位をつけていくということが、次のビジョンを考えるときの一つのテーマになると思いました。

それとここまでの話で、今後、ビジョンを、どう成果指標を作るのかというところで、担当者、特に行政の担当者が替わっても、理念や指標は変わらずに追いかけていくということの仕組みをどう作るのかということが、次のビジョンを考える一つの大きなテーマだと思いました。この2点です。ありがとうございます。

**(若林委員長)**

大澤さん、ありがとうございます。ほかの方もさらに言いたいことがおありだと思いますが、次の議題でもまた意見交換しますので、ご意見をためておいていただけたらと思います。では、「次期ビジョンの策定に向けて」について事務局よりご説明をお願いいたします。

### **3 次期ビジョンの策定に向けて**

**(当日資料、資料4、資料5)**

**(事務局)**

では、引き続き、山下のほうで説明させていただきます。

次第3「次期ビジョンの策定に向けて」についてです。資料は、パワーポイントの資料10ページをご覧ください。

「次期ビジョンの策定に向けたスケジュール」の部分です。上の段は、策定に向けた事務局の作業、下の段が文化創造推進委員会の開催時期と議論の内容を記載してございます。

策定に向けた作業としましては、令和2年度終わりから庁内での検討作業を開始しており、令和3年度も引き続き、検討作業を続けていきます。今年度最後に「骨子案」と書いたのですが、庁内の関係部署の意見を反映させた体系案のようなものをまとめて完成させる予定にしております。

令和4年度は、まず4月に推進委員会を開催いたしまして、令和3年度に作りました骨子案、体系案についてご議論いただきたいと思いますと思っております。4月から6月くらいにかけて市民アンケート調査、若者意識調査などを行いまして、市民の意識についての部分やデータを収集してまいります。各種調査結果をふまえて、原案を作成し、7月ごろに推進委員会を開催しまして、調査結果などを皆様にお示ししつつ、原案の作成を進めていきたいと思っております。9月くらいに原案を完成させまして、10月に文化創造推進委員会で原案と事務局のほうで作成した評価指標の案などについてご議論いただきたいと思いますと思っております。委員の皆様からの意見を反映させつつ、庁内で意見交換を行いまして、素案を作っております。その素案が12月くらい

に固まるかと思うので、12月に推進委員会を開催しまして、素案についての議論、あとは評価指標の具体的な把握方法などについても意見交換を行いたいと思っております。3月くらいに推進委員会で素案の最終調整を行いまして、素案の完成となります。

令和5年度、素案のパブリックコメントを行いまして、意見を反映させつつ、議会への報告を経て新ビジョンが完成。令和6年度に新ビジョンスタートというような流れになっております。

令和5年度は推進委員会を3回程度、開催する予定にしております。

推進委員会の開催の回数につきましては、令和4年度、5回としておりますけれども、まだ予算が確定しておりませんので、最大限見込んでおります。多く見て5回ということで資料を作っております。

では、続きまして、11ページに移ります。「次期ビジョンの策定に向けた現在の状況」というところです。

今年の3月から6月にかけて、職員によるワーキングを実施しております。そこでは、若林委員と大澤委員からアドバイザーとして関わっていただいております。若手職員を中心に、新潟市が文化都市としてあるべき姿は、その実現のために必要な取組みは何かなどを、ざくばらんにディスカッションするような形でワーキングを行いました。職員ワーキングを行うことで、自分たちの意見が反映された自分たちの計画という意識を持ってもらいたいと思っております。今後も職員ワーキングは継続していきたいと思っております。

続きまして、ここで資料の4をご覧ください。「職員ワーキングによる体系項目の洗い出し」という資料になっております。これは職員ワーキングで出た意見をグルーピングして簡単にまとめたものになっております。これは、今後の策定作業の中で議論の材料にしていきたいと思っております。

続いて、資料5「次期総合計画の構成イメージ(案)」というものです。新潟市総合計画は、平成27年度から令和4年度までの計画期間となっております。令和5年度に改訂を迎えます。次期文化創造交流都市ビジョンは、総合計画の改訂の1年後の令和6年度にスタートする形になります。現在、次期総合計画の策定作業が進んでおりますが、1年ずれていることで、総合計画の内容を文化ビジョンに反映させることができます。この資料5の次期総合計画の構成イメージは、まだ案の段階ですので、今後、変わってくる部分もあるのですが、見ていただきますと総合計画の基本構想、基本計画、実施計画という構成の中の基本計画の中、真ん中の辺りで「市民活躍」や「文化・教養・スポーツ」、「子育て・教育」と分野が分かれて、この分野ごとに政策・施策というものを決めていく、そういった流れになっております。その分野の中で、評価指標を設定していくということになります。ですので、総合計画の内容と整合性を図りながら文化の計画、文化創造交流都市ビジョンの策定も進めていきたいと思っております。

次期ビジョンの策定に向けての説明は以上となります。不明な点やご意見などございましたら、お聞かせいただければと思っております。よろしくお

願います。

**(若林委員長)**

では、委員の皆さんから、事務局の説明で不明な点、ご意見、ご提案があれば、何でも挙げてください。とりわけ、市民から意見をすくい上げる方法として、今はアンケート調査やワークショップ、パブリックコメントは予定されていますが、他に良い方法があればご提案いただきたいです。

**(野内委員)**

市民アンケート調査はぜひうちにも来て下さい。やっていること、継続していること、それから出している成果というものを積み上げたものがありますし、今もまだ続いているものがありますので、ぜひ市役所の庁舎の中で共有していただくとありがたいと思っております。中央区でやっているものだからとか、本庁舎のほうでやっているものだろうかということではなくて、こちらはボードレスに関わっていますので、その辺のすり合わせのお役に立てるのであれば、我々も微力ながらお手伝いができると思いますので、是非こういう市民を活用していただければと思っています。

**(若林委員長)**

ありがとうございます。ご提案ありがたいですね。

**(伊野委員)**

二つあります。今、野内さんのお話で、例えば、私が大学にいたときに学生を連れて地域の盆踊りに毎年行っていたのですけれども、そういうところまで何か吸い上げられるようなものがあるといいと思いました。

二つ目は、疑問というか質問ですけれども、資料4の体系項目の内容について。今現在のビジョンにある「東アジア」、それから「アジアとの交流」、「世界につながる」の部分が、資料4には記載されていないのがすごく不思議で、どうしてないのかと。難しいから職員の皆さんは引いているのかなと思ったのです。でも、新潟市にとっては、地理的にも歴史的にも大事な部分ですよ。この辺はどうだったのでしょうか。なぜ出てこないのでしょうか。

**(若林委員長)**

ありがとうございます。二つ目はご質問だったので、事務局の皆さんいかがでしょうか。

**(事務局)**

職員ワーキングでは、まずそもそも市民の皆さんが「身近な文化」をどう感じているのかとか、現ビジョンの中では東アジアなど世界に向けてという視点が入っているのですけれども、もっとそれよりも前の段階が新潟市には不足しているのではないか、という話がありました。若手職員で話をしていると、「外に向けて」という以前の、もっと自分たちの土台というか、文化の土台というものをしっかりして積み上げて、そこで初めて「外に」ということが出てくるのではないかというような意見がありました。

青少年を対象とした、次世代の育成というところで、東アジアの取り組みなど、今やっている取り組みも大事だという意見もあったのですけれども、やはり土台固めが必要という意見は多かったです。

**(伊野委員)**

学生に外国へ行かないかという、行かないという返事をするケースのほうが大変多くなってきているのです。やはり自分たちの足固めをすることはとても大事なわけけれども、それと外と交流することによって、はじめて自分たちの足固めもできるということがとても大事なだろうと思って聞いていました。ありがとうございました。

**(アーツカウンシル新潟)**

今の補足をさせていただくと、割と文化のイベント的な、事業的なものに対する反動みたいなものは全体にあるのだと思います。文化の取り組みをしたときに、一体、どういう成果があるのかということが、割と職員の中でも自らの疑問として持っていて、だからこそ今回、多田さんや百合岡さんなどにも参加いただいていますけれども、もちろん国際交流的なことも含めて、どういったゴールが具体的に見えるのかということを考えながら、今回、ビジョンを作っていかなければいけないのだなということが、先ほど、山下さんのお話の補足として、全体の感じとしてありました。

**(若林委員長)**

私もワーキングの場にいたのですが、前のビジョンを排除する、違うという否定ではなく、優先事項として上がってきたのが別のものだったという印象でした。次回のビジョンには、政策を引っ張る意味で入れていくという考えもあるでしょうし、そこは具体的に検討していけたらと思います。

実は、今年度はこの会議は今日1回だけです。次期ビジョンに向けて職員の皆さんが骨子を考えるためにも、今日いろいろな意見を出しておいていただくといいかと思しますので、何でも忌憚なく、どんな変化球でもいただけたらと思います。では、多田さん、百合岡さんの順でお願いします。

**(多田委員)**

そもそも、なぜ文化が大事なのかというところをもう一度、共有する必要があるのではないかと思うのです。私は、かねがね持論として、経済が豊かだから文化が生まれるのではないかと考えています。文化があるから経済や産業が生まれるのではないか、逆なのではないかと思っているのです。だから、本当に文化というのは、食文化も、生活文化も、作り出すものもすべてのベースにあって、そこから教育や産業やいろいろなものが生まれていく、そこをきちんと理論武装する必要があるかと。このことが腑に落ちると、市役所の職員もそれに目掛けて参画しやすいのではないかと思うのですけれども、いかがでしょうか。

**(百合岡委員)**

先ほど、足場固めが必要だということは、確かに資料4からも感じるのですけれども、経済や産業の世界は、ある程度、夢の世界が欲しいです。このように新潟が変わっていくとか、こういう方向性でまちがどんどん動いていくという方向性を行政が示すのであれば、その方向性を示していただけたほうがいいと考えます。そういった意味でとらえるとイメージがわかないところがあります。例えば、先生のおっしゃる海外だったり、国際だったりとい

う少し視野の広い部分なのかも分かりませんし、あるいは月並みな表現ですが地域ブランドとなるか分かりませんし、それ以外になるかもしれません。どのような方向性になるかはわかりませんが、もう少し経営学で言うストレッチ、少し伸ばすところが欲しいということが、まず私が感じたところです。恐らくこれを見た地元の産業界の方々や中小企業の経営者の方々は、儲かるイメージが湧かないから文化には興味を持たないという結論になるような気がします。これが私の直感としているところです。

あと、資料5のKPIがたくさん並んでいる表がありますが、大企業でもこのようなKPIのつくり方をしますが、KPIがたくさん並ぶと、何が重要指標か全く分からないので、KPIを三つくらいでまとめてKGI（キー・ゴール・インジケーター）というものを作る方法があります。いくつかのKGIをつくり、それにKPIを関連付けていくことで計画自体が明確になると考えます。関連付けが分からない状況のまま、引き続きいろいろなことが展開されてしまうことが危惧されることをコメントさせてください。

**（若林委員長）**

パフォーマンスではなくてゴールだということ、あとは、やはり夢や方向性を「広げる」ということがビジョンには大事なのではないかというご意見は非常に大事ですよね。ビジョンというのは、こうだったらいいなど、なりたい姿、地図を描くことですよね。「できること」と「ありたいこと」を考えたとき、できることだけやっているなら、別にビジョンを作る必要はないわけですよね。ビジョンに何を盛り込んでいくかは、ストレッチの姿勢で考えていけたらと思います。

**（中村委員）**

今ほど、なりたい都市像とかという話がありましたけれども、逆に何もしないとどうなるかということが分からないのではないかと。そのまま放っておいてしまうとどういう新潟になってしまうのかということが分からないのではないかと。そこもきちんと洗い出して、なりたい姿になれないのは、なぜ引き下がってしまうのか。どこに手を打てばいいのかということは、その次に、きっと明確に出てくるのではないかと思います。

それと関係ないわけではないのですけれども、現在の基本方針の2のところ、国際交流のことが出てくるのですけれども、その中の（2）に「北東アジアにおける文化交流拠点として」という文言が出てきているわけですが、すでに県のほうで北東アジアの拠点となるようなERINAというところを解体しようとしているようなところで、やはり文化を解体するような思いがするとずっと感じておりました。開港というところのキーワードを野内さんも言うておりましたけれども、そうした部分での光の当て方も必要になっていくのだなと。どういう形で私たちの港が生まれ育ってきているのか。その成り立ちと同時にそこをやはりもう一度、きちんと探り当てていくことも必要なのだと感じます。

**（伊野委員）**

一つだけ、先ほどの皆様のご発言の中で、特に多田さんのご発言と関係

することなのですが、基本理念がとても内向きだと感じました。「持続可能な」の文言は、恐らくSDGsだと思うのですが、しかし、「持続可能」な社会に「文化が貢献するのだ」という位置付けですよね。これは先ほどの多田さんのご発言だと、逆ではないのかという発言でしたけれども、「文化が地域のために貢献するのだ」という見方は少し違うのではないのでしょうか。だから、この基本理念はもう一度、考える必要があるなど。そして、それを「振興」するのだということも少し違います。市民が自らやるなら、これも「振興」という言葉は、また少し違うのではないかと。基本理念は疑問に思いました。

**(若林委員長)**

何かに役立つから必要なのだと言っていく方法と、存在そのものが必要だからと説明していくのでは、ビジョンの方向性が変わってきますよね。

**(大澤委員)**

今の多田さんから伊野先生の話がすごく大事なところで、理念として何を掲げるかといったときに、今、資料4の基本理念のある言葉、うっかりすると私もそういう言葉遣いをしてしまうと思ったのですが、「持続可能な地域づくりに貢献する文化芸術振興」、持続可能な地域づくりのために文化芸術を振興しなければいけないという、その論理の構築の仕方そのものが、芸術を一言置いておくとしても、文化というものをなくして持続可能な地域はあり得ないのだとしたら、まず文化のことを、その理論が、私もまだうまく説明できない部分です。ここは非常に大事なところなので、この言葉遣いを間違ってしまうと、ずっとずれたまま、手段のために文化があるかのように、すべて説明していかなくてはならなくなるというところがつらいところだと思いました。ですので、そこは丁寧な議論が必要だと思います。

そうした理念、ビジョンというものをどう実現するかといったときに、ゴールを設定し、それを戦略に落とし込んでいくわけですが、恐らくこれまでの市の事業が、多くの場合、イベントが多かったということが一つ気になっていたところでは。従来やってきた事業がどうしてもイベント型であったり、あるいは箱ものの整備であったり、管理であったりする形が多いので、そこに着地させるための成果指標を考えなければいけない。そこにひもづけるための理屈、ロジックを考えなければいけないということになると、先ほどの手段と目的が反転してしまうみたいな現象がずっと引きずってしまう感じがするので、ビジョンとゴールの設定のときに、できるだけ着地点として、「イベントをやるから」ということにひもづけようとしない、あるべき姿を追いかけて「だからこういう事業が必要なのだ」と。それを測るための成果指標なのだと考えないと。もう一回、その最初のボタンの掛け違いを防ぐためにどうすればいいのだろうということを改めて考えました。

**(若林委員長)**

恐らく「あるべき姿」がぐらつかなければ、検証の方法で困ることは、それほど生じないのかもしれないし、普及も別の方法が見えてくるのかもしれないと思いました。

ここまでの議論で、割と根本から一度考えてみないといけないということが見えてきました。そもそも、ここで言う「文化」や「新潟らしさ」は何だろうというところから始め、何のためにビジョンを設定するのか。「文化は何かに貢献するから文化ビジョンを考えるのか」、「イベントありきの積み上げ型で考えているから苦しくなっているのではないか」、「あるべき姿から考えるとこういう事業が必要だと考えると道筋がつけやすく、理論武装しやすい」などのご意見が出ました。

次の議題に移る前に、私からも感じたことを申し上げますと、これは誰に向けたビジョンなのかが気になったのです。伊野先生から基本理念が内向きだという指摘がありましたが、ヒアリング相手が職員であることもめずらしいと思いました。他部署に、毎年こんなに丁寧に実績を聞いていて、他部署のやっていることを評価し、助言することがミッションに入っていることに驚きます。誰に向けたビジョンなのか—市民なのか、申し送りのために、同僚や他部署に向けたビジョンなのか。ここも整理が必要だと思いました。

では、最後の議題に入る前に、現行と次期ビジョンの策定について、何か言い残したことがある方はいらっしゃいますか。では、百合岡さん、伊野さん、野内さんの順でお願いします。

**(百合岡委員)**

もう一つ、先ほどの基本理念のところ「持続可能な地域」とありますが「持続可能な地域」というのは、どういった状態が「持続可能な地域」なのかという理念の定義が必要だと考えます。経済部では先ほどあげたGDPと生産年齢人口が多くなれば良いというシンプルな考えがあげられますが、文化において、この「持続可能な地域」というのは、どのように定義すればいいのかについて検討が必要になると考えます。

**(伊野委員)**

この資料4について、何か関係性が分かるようなものがあると良いと思います。全部六つが並行的にありますよね。この資料4がどうつながっていくのか、あるいは課題や意見のところ優先度などありますけれども、何がベースになって、どことどうつながっていて、どうするといいのか何か図みたいなのができるといいと思いました。

**(野内委員)**

この市民の意見を聞いていただくというところの中で「これがあつたらいいな」とか「これがないからだめなのだよ」というような、ないものを嘆いたり欲しがったりすることに対応するのも大事なのだと思うのですけれども、もうすでに新潟市民の中では、あるものに気づいて、新潟の魅力に気づいて、それを伝えるべく行動して、そして楽しんでいる人たちはいるのです。先ほどのまち歩きを通してだと思えるのですけれども、実際、そうやって動き出しているところもあるので、優先順位でどちらが先ということではないのですけれども、やはり夢も大事で、これがあつたらなということももちろん大事なのだと思うのですけれども、現にそれでもう動き出している人たちというのがかなりいらっしゃるの、そういうところにもより耳を傾けて、一

緒に歩いていただけたらいいのかと。そういうものが引き続き、盛り込まれたらありがたいと思っております。

(若林委員長)

ありがとうございました。

では、本日最後の議題「アーツカウンシル新潟について」事務局より説明をお願いいたします。

#### 4 アーツカウンシル新潟について

(資料 6-①、資料 6-②)

(事務局)

それでは、土屋からご説明させていただきます。

会議冒頭にご説明しましたとおり、行政、文化創造推進委員会、アーツカウンシル新潟が三位一体の体制で文化創造交流都市の実現に向けた取組みを推進しているところです。ここではその一つ、アーツカウンシル新潟の活動状況についてご報告するものです。時間に限りがありますので、特にビジョンへの関わりとコロナ禍における取組みに焦点を当ててご説明いたします。

資料は二つご用意しています。一つ目の 6-①は令和 2 年度の事業報告書、二つ目の 6-②は成果検証に関するものです。

はじめに資料 6-①をご覧ください。「1 設立目的」に記載がありますとおり、アーツカウンシル新潟は、持続的な文化創造交流都市の推進体制を構築することを目的に、平成 28 年 9 月に設立されました。人員体制、予算状況については記載のとおりなっています。

資料の裏面をご覧ください。令和 2 年度の具体的な活動についてです。アーツカウンシル新潟の機能は、大きく分けると「①市民の文化芸術活動の支援」「②調査・研究」「③情報発信」「④企画・立案」の四つとなります。

「①市民の文化芸術活動の支援」については、相談、助成事業が中心となります。相談については、通常の相談窓口に加え、新型コロナウイルスの影響を受ける文化芸術関係者を対象とした相談窓口を開設し、文化芸術活動の再開や継続に向けた支援を行いました。それに伴って、相談件数は 269 件に上り、前年度に比べて 104 件増加しております。

助成事業の実績については、採択ベースで活動助成 4 件で 68 万円、ステップアップ助成 1 件で 15 万 5,000 円、基盤助成 3 件で 151 万 5,000 円となっております。新型コロナウイルスの影響もあり、前年度より件数、金額ともに減少している状況です。

次に、「②調査・研究」については、二つ目の項目、市の文化施策の向上に資する調査・研究の欄に記載がありますが、新型コロナウイルス感染拡大に際しての文化芸術活動についての現況調査をコロナ拡大後、ただちに実施し、その結果を基に市の新型コロナ対策支援事業の企画立案から事業実施に係る相談、助言、提言を行いました。また、感染拡大防止ガイドラインの策定なども市と連携して行いました。

「③情報発信」は記載のとおりとなっています。

「④企画・立案」については、一つ目の項目「市文化芸術関連事業への支援」の欄に記載がありますが、現行ビジョンの成果検証について、市と連携して取り組みました。最後の行、県及びその他全国組織等との連携につきましましては、新潟県の文化芸術専門相談窓口業務の委託を受け、県内各地での相談会を通して、市外の団体からもアーツカウンシル新潟の役割が理解され始めているところです。

このような令和2年度の活動の成果について、資料6-②のシートに基づき検証しています。資料6-②をご覧ください。大変細かい資料で申し訳ございませんが、まず資料の見方から説明します。青く色をつけた部分を見ていただきたいと思いますが、左から3列目「直接の結果 (Output)」については、今ほど説明したアーツカウンシル新潟の令和2年度活動状況を記載しています。4列目から6列目の「事業の成果 (Outcome)」は、各時期におけるあるべき姿、目標を設定しています。令和2年度は、アーツカウンシル新潟設立後4年が経過していますので、5列目の中期に当たります。最後に一番右端の「成果検証」の欄をご覧ください。今ほどの中期の事業成果、目標に対する現時点の達成状況や課題を含めた評価について、市のほうでコメントを記載しているものです。

市のコメント部分をいくつかご紹介させていただくと、1行目の「新潟市文化行政への支援」のところでは、右端に記載のとおり、現ビジョンにおける事業評価に関するヒアリングを通じ、顕在化した問題点を次期ビジョン策定に活かす提案を行うなど、ビジョンの推進に市と一緒に取り組んでいただいている。

その下、3行目の「市内の文化芸術団体等への支援、連携」では、コロナ禍において一般相談や助成件数は減少したものの、コロナ関連の相談窓口を開設し、数多くの相談業務を行うなど、芸術文化団体への支援につながっている。今後もより一層、認知を広げる取組みを進めていくことが必要であると考えたと記載があります。

一番下の行の「アーツカウンシル新潟のプレゼンスの向上」については、全国のさまざまな団体の視察受け入れや受託業務などを通じて、文化庁や他のアーツカウンシル等から地域アーツカウンシルのモデル的な取り組みとして認知されているといった内容となります。

以上で、アーツカウンシル新潟のご報告を終わります。不明な点やご意見などがございましたら、お聞かせいただければと思っております。よろしくお願いいたします。

(若林委員長)

杉浦さん、ぜひ補足があればお願いします。

(アーツカウンシル新潟)

補足はないですが、唐突にアーツカウンシルと言われても、多分、皆さん困ってしまうと思うので、このようにすればいいのではないかという意見があれば、お聞かせください。

**(若林委員長)**

では、意見交換時間は、予定では5分となっているので、皆さんから一言ずつご意見を頂く感じですが、大事なところなので、ぜひお一人ずつ何かおっしゃっていただけたらと思います。

なぜここでアーツカウンシルなのかということ、ビジョンの推進にアーツカウンシルも一緒に関わっているということですね。アーツカウンシルのここが分からない、どのように検証しているのかなど、ご質問、ご意見いかがでしょうか。伊野先生、いかがでしょうか。

**(伊野委員)**

何度かアーツカウンシルさんと教育関係の仕事をさせていただいて、これは本当に素晴らしい組織だなと思ったのが素直なところです。学校と地域の文化団体や、私の場合は民俗芸能や民謡などですが、見事につなげていただいて、本当に素晴らしい活動だなと思ったのです。

そのときにつくづく自分も一緒になってやってみて分かったことが、先ほどの資料4のところにも、庁内ワーキングの意見が出ていますが、学校との取り組みはなかなか難しいのです。個々の総合学習にいくとか、あるいは社会科の先生から声をかけられて、「こういう取り組みについてちょっとやってみてください」など。これは学校でかなりやられていますし、学習指導要領が変わって、地域連携というのは学校の命題なのです。要するにやらなければいけないのです。だけれども、学校のほうも今のプログラムで精いっぱい、それ以上のものはなかなかできないです。そこをアーツカウンシルの方が切り込んでいかれるわけですが、だけれども非常に難しいところがあまりにもありすぎるのです。一言で言えば、もう固まってしまって先生方も動けないです。忙しいのもあるし。そこを何か崩していかないと難しいところがあるなど。せっきくのエンジンがあるのに自動車になっていかないみたいなところがあります。それは、例えば、市の中で、教育行政として「地域文化のこういうことはカリキュラムとしてやる。についてはアーツカウンシルと協働して、こういうシステムを作ろう」みたいなことを全体的に行政とも連絡してやらないと難しいところがあるのではないかとということをとて思いました。

**(多田委員)**

教育との関わりのことは、私も思っていたのですけれども、今、伊野委員からおっしゃっていただいたので、別のことを言います。

このWAONカードの可能性はすごいなと思っているのですけれども、これはデータを取るためのものですか、それとも寄付金を集めるためのものですか。どちらの目的が主でしょうか。

**(アーツカウンシル新潟)**

お金です。0.01パーセントが寄付金になりますので、ぜひ熊野でもご活用ください。

**(多田委員)**

今後、KPIにしる数値化することが難しい中で、お金を集めると同時に、

文化芸術に使ったデータとかがこれで得られると、すごくいいのになと思うのですけれども。でも難しそうですね。

**(中村委員)**

私は今も助成金を受けている側でもありますけれども、障がい者自らがまち歩きをするガイドになるということで、福祉とも言えず、まちづくりとも言えないような、非常に微妙なところというか、よく分からないふにゃふにゃしているような状態を受け止めてくださって、私たちの活動に光をきちんと当てていただいた。多様な角度からそれを見て、取っていただいているということもあるので、もしここがなかったらできなかつたかもしれないとか、自信を持って前に進むことができなかつたのではないかと思っていて、非常に心強いパートナーであると認識しています。

今後こういう形で押し続けるところがないとくじけてしまうところがあるような気がしますので、存在としては非常に意義があると思って感心しております。

**(野内委員)**

何回も同じことなのですからけれども、先ほど、伊野先生がおっしゃった内容と同じなのですからけれども、まち歩きや先ほどのこういう地図などの活用というところで、今、小中学校、私が行っているところなので中央区が中心になってしまうのですけれども、地元の教育とこういうものが結びついているということは、なかなかそこまで行けていないところがあるのです。そこで一番大きいのは、地域教育コーディネーターの皆さんの存在です。学校の先生は替わってしまうのですけれども、地域教育コーディネーターの方がそのままいてくださるので、そのつながりで今、学校との接点が我々にあるのです。ですから、部署が観光や教育など役所の中ではばらばらかもしれないのですけれども、アーツカウンシルにはそういう垣根を越えて、地域教育コーディネーターががんばっているところをまた応援していただいて、シティガイドや地元の我々と学校が結びつくお手伝いをこれからもしていただけたらありがたいと思っております。

**(百合岡委員)**

四つの機能を持って、この事業をやっておられるようですが、我々には三つの機能があり、違うところは二つ目の「調査研究事業」がないことです。それ以外に、我々がメインに置いているのは、一つ目の支援活動のうち「相談業務」となりますが、アーツカウンシルの事業の中の強弱はどんな感じなのか、今後の取り組みの中で、どこを中心に新潟市の文化を引っ張っていくのかということに関連する部分となりますが、体制と予算の配分なども含めた事業の強弱の付け方がポイントだと感じます。

**(大澤委員)**

改めてアーツカウンシル新潟の存在というものは、新潟市民の皆さんから見られている状態と、全国の文化政策の状況から見られている状況というものは、外側から見て、非常に注目されているということを改めて伝えておきます。視察の件数などを見ていただいても、他の自治体がアーツカウンシル

新潟に話を聞きにいこうというものがずっと続いている状態で、これは地域アーツカウンシルの一つのモデルで、まだ解答のある形ではないのですが、アーツカウンシル自体が日本の中で、どの地域でも模索している中で、新潟は一つのモデルとして非常に注目されていて、そこを私としても、もっと評価があっていいと思って見えています。

そもそもアーツカウンシルはという話になったときに、この三位一体という構図が、形式としてはこうだけれども、実態としてどうなのかという、なかなか実態が伴っていない部分があるかもしれないと思うのです。つまり、私たちはこの有識者会議としても位置付けられているわけですが、これが今年も年1回しかない、来年は5回あればいいのですけれども、頻度の問題にしても、意見したものが懇談会という形になっているということに関して、三位一体と言うには弱いのではないかという見方ができるのかもしれない。

あと、行政とアーツカウンシルの役割にしても、本来は「一定の距離を置いた関係」ということがよく言われるのですが、財政的にも、その事業の内容についても、非常に汎用度が高いと言っていいと思うのです。アーツカウンシル新潟が、もし本当にアーツカウンシルとして機能するのであれば、今回の次期ビジョンの策定に、どれだけアーツカウンシル新潟として「こうあるべきだ」という意見を率直に言っていただけるか。

例えば、先ほど優先順位の問題、新潟らしさを語るにしても、文化政策の優先順位を語るにしても、行政の中ではさまざまな政策体系にひもづけられていて、予算規模やいろいろな位置付け、事情があると思うのですが、アーツカウンシル新潟はばつさりと文化行政振興という観点から、あるいは市全体を文化という視点で見てこうあるべきだという意見を、対等な関係で言えてこそ三位一体ということが形になると思うので、その辺りを来年度の会議で、新潟市さすがだな、アーツカウンシルさすがだなと言えるようになっていただきたいと思います。

**(若林委員長)**

大澤さん、頼もしいまとめをありがとうございます。

本日の議題はすべて終わりました。事務局にバトンをお返しする前に私から提案があります。

配付資料のスライド10ページに「次期ビジョンの策定に向けたスケジュール」があります。次回骨子案について議論するのは来年の4月から6月ですから、だいぶ間が開いてしまうのです。この間、骨子案を事務局がアーツカウンシルと策定すると思うのですが、ぜひ委員からも意見を出していただくといいと思うのです。メールを全員一斉で送れるように、メールアドレスを共有してもよろしいでしょうか。いいですかね。ありがとうございます。BCCではなく、メールアドレスを表示した一斉メールなら意見が言い合えるので、メールベースでも議論できるよう、事務局でメーリングリストを作っていたらと思います。

皆様、本日はご意見をたくさん出していただきましてありがとうございます。

した。進行を事務局にお戻しします。

## 5 その他

(司会)

若林委員長、そして委員の皆様、ありがとうございました。

次第5「その他」ということで、委員の皆様から事務連絡等ございましたらお願いします。よろしいでしょうか。

それでは、事務局から事務連絡をさせていただきます。今ほど、若林委員長からもお話がありましたけれども、次期ビジョンの策定につきましては、今後、私どものほうで骨子案の策定を令和3年度中をめどに進めてまいります。次の委員会が令和4年度に入ってからということで、骨子案の策定途中においても、今日のご意見を含めて、メールなどで情報共有をさせていただきながら、またご意見を頂きながら進めてまいりたいと思います。どうぞご協力のほど、よろしくお願いいたします。

## 6 閉会

(司会)

以上をもちまして、令和3年度第1回新潟市文化創造推進委員会を閉会いたします。本日は、お忙しいところご参加いただき、大変ありがとうございました。